

**【研究課題名】**

法医解剖検体ヒト心筋におけるT型Caチャネルの発現とその分布評価  
(課題番号：H26-15/新規)

**【研究等責任者】**

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 分子生理学 石川泰輔

**【研究の実施場所】**

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 法医学および分子生理学

**【研究の目的・内容】**

日本では毎年5万人以上が突然死により亡くなります。年間死亡者数が約120万人であることを考えると、決して少ない数ではありません。その突然死の一部は、心臓が突然痙攣する心室細動によるもので、その原因として、わが国ではブルガダ症候群が多いと考えられています。ブルガダ症候群の一部には遺伝子異常が報告されているのですが、約7割の患者さんには原因遺伝子を見つけられていません。もし的確に遺伝子異常を見いだせば、突然死をした家族の遺伝子を調べて、あらかじめ予防をすることも可能になるのですが、現時点では原因遺伝子が十分に解明できていないので、このような予防も実現できておりません。

私たちの仕事はこの原因遺伝子を突き止めることにありますが、実際にヒト成人の心臓において、その遺伝子がどの程度活躍しているか調べることは容易ではありません。実際にヒトの心臓から組織片を採取する必要がありますが、当然生体では不可能です。そこで、以前に本学で採取致しました、ご遺体の心臓の一部を採取させていただき、病気の原因遺伝子が心臓の中でどのように分布しているのかを検証する予定です。

**【試料等提供者】**

長崎大学法医学教室で解剖に附された方

**【研究期間】**

平成28年3月31日まで

**【倫理的問題点等】**

本研究では既に法医学研究室に保存してある法医解剖検体の中からサンプリングを行います。死後のサンプリングですので、もちろん侵襲はありません。個人情報であるため、個人情報管理者を決定したうえで匿名化を行い、厳重に管理します。

**【試料等提供者またはその家族等の人権の擁護】**

本研究はヘルシンキ宣言及び臨床研究に関する倫理指針に従い実施され、また人体の一部を対象とする研究であるため、試料に対しては敬意をもって丁寧に扱わせていただきます。

**【予測される研究対象者等に対する危険又は不利益】**

情報管理者による試料検体の連結不可能匿名化とともに、同管理者による検体資料の厳重な施錠管理下に置くことによって情報漏洩に十分配慮することで、本研究による解剖検体個人ならびに周辺への危険性や不利益は解消されるものと思われま

**【個人識別情報を含む情報の保護の方法】**

本研究においては、各検体と各個人情報間の関連付けは全く必要とされません。従って、氏名などの記録がある資料については、住所、生年月日及び氏名については削除を行って連結不可能匿名化ののちにデータを保存します。併せて、同管理者による検体資料の厳重な施錠管理下に置くことによって情報漏洩に十分配慮します。

**【研究等の期間及び当該期間終了後の試料等の保存又は廃棄の方法】**

研究期間中の試料およびデータは施錠可能なキャビネット内に保管する。研究終了後は、試料は焼却廃棄を行い、紙面データは研究終了後、責任者がシュレッダーで破棄します。取得された画像データは学術雑誌や学術集会での成果発表のため情報管理者と研究等責任者によって5年間保存されます。

**【研究に関する連絡先】**

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 分子生理学 石川泰輔

TEL: 095-819-7031

E-mail: [ishitai@nagasaki-u.ac.jp](mailto:ishitai@nagasaki-u.ac.jp)